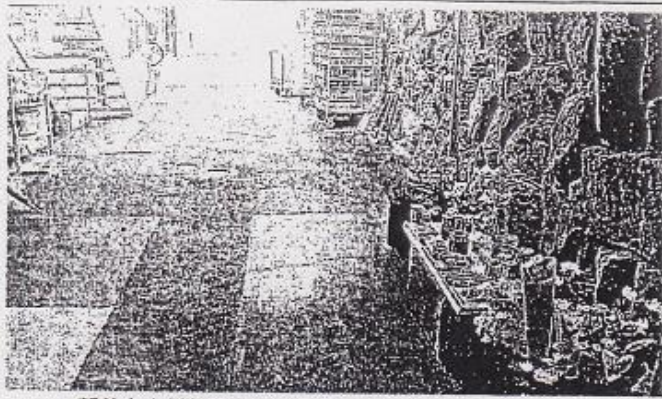


スーパー従業員
殺害から1週間

有力情報求め110人態勢

捜査本部 カギ握る目撃証言

広島市佐伯区五百市中央四丁目のスーパー「マルシヨク五百市店」で三日夜、同店主の新谷進さん(55)が、二宮北區可部六丁目IIが殺害され、店内のテナントから現金数千円の入った手提げ金庫がなくなった事件は、十日で発生から二週間になる。五日市地区の中心商店街での事件ながら、人通りの極めて少ない日曜日の夜の犯行で、強盗殺人事件の疑いを強める真贋の捜査本部は、目撃者や有力情報などを求めて、連日百人態勢で捜査している。



新谷さんが殺害された現場付近の商品搬入通路には、めい福を折って、花やたばこなどが供えられている

事件当日の午後九時すぎ、近づく住む新谷進さんが、「警察に通報して」という叫び声を聞いた。捜査本部は、新谷さんが誤られたのは同時刻「110」である。首や頭など数箇所を鋭利な刃物で切られていたが、また凶器は見つかっていない。

事件前後の不審な人物や車などの目撃証言が捜査のカギを握るだけに、捜査本部は、午後九時から十時半「110」にかけて周辺道路で検問をすすめていて、聞きこみにかき入れている。

同店は、五日市地区の中

心部を走る「コイン通り」沿いにある。日曜日の夜の、犯行現場の同店北側の商品搬入口が、表通りから

人目につかぬへのも捜査の「難」になっている。同店裏の路地には、約五十メートル北側にある片詰め駐車場まで点々と血痕が落ちていた。目撃者は高約一メートルの欄を乗り越えて路地を抜け、駐車場から車かバイクで逃走したとみられる。周辺は民家が密集し、袋小路の路地も多く、現場周辺の地理に詳しいか、下見をした可能性も強い。

店内では、事務所のドアなど数箇所から血痕が見つかった。搬入口から店内の事務所までは約二十五メートル。目撃者が新谷さんを刺した後、店内を物色した、その見方が強い。捜査本部は、目撃者が刃物で自らも傷つけた可能性もあるとみている。店内外で採取した血痕の鑑定も進んでいる。

同店を経営するサンリフ(北九州市)の中間地区営業本部は、県内の警備員が常駐する大型店を除く五百市編で、事件当日の四日から閉店時に警備員を雇うなどの対策を取った。新谷さんは殺された時、店の出入り口をはじめ、売上金を保管するマイナル式金庫や金庫のある事務所などのカギの束を持っていたが、見つかっていない。このため、同店は、すべての鍵を取り換えて、七日から営業を再開した。殺害現場には、お客や従業員らがめい福を折って供えた花やビール、たばこなどが絶えない。同市中間地区営業本部の中本繁生営業部長は「新谷さんは、絶対に人の恨みを賣うような人間ではない。一日でも早く犯人を捕まえてほしい」と、事件の早期解決を願っている。

認東広島 日 0824-25-1110
公自動車学校 毎入校受付